

令和5年度 第2回阿南市教育振興基本計画等策定委員会
議事録

日時：令和5年11月21日（火）13:30～15:00

場所：阿南市役所3階303会議室

出席者：委員12名中8名出席（別紙委員名簿参照）

教育委員会：坂本教育長、林委員、里美委員、新居委員、岡本委員

事務局：（教育部）市瀬教育部長（学校教育課）福多主幹（教育総務課）田上課長
（学校再編推進室）西岡室長、藤居室長補佐（教育総務課）小笹主査
（教育総務課）芝山課長補佐、湯浅事務主任

■会次第

1 開会

2 議事

（1）阿南市立小・中学校再編実施計画素案について

（2）その他

■1 開会

・教育長挨拶

■2 議事

【議事1 阿南市立小・中学校再編実施計画素案について】

（箕島委員長）

議事に入ります。市立小中学校再編実施計画素案について事務局から説明をお願いします。

（事務局）

阿南市立小・中学校再編実施計画素案の説明。

（箕島委員長）

ありがとうございました。ご質問、ご意見等ございませんか。

（田中委員）

この会合に参加させていただいておまして、よく分かりました。先日、大変な体験をしました。加茂谷、福井、椿泊含めて、子育て支援と読書活動で地域に入っています。35ページの津乃峰小学校です。子どもの数が減っています。津乃峰小学校を訪問した際に、校長先生から1年生が2人欠席していますと言われました。教室に入ったとたんに意味が分かりました。教室に机が6つでした。子どもたちはどこに行ったのかと叫びたくなりました。統廃合の意味が身に染みて分かりました。

（箕島委員長）

今のご意見は、再編が重要ということですね。

(原田委員)

先ほど、第3章で魅力のある新しい学校づくりということでご説明をいただいたんですが、吉井小学校の保護者としての見解では、教職員の充実以外のことがもう既に出来上がっている印象があるんですが、他の学校ではこういったことがまだ出来上がっていないので魅力として感じるということでもよろしいですか。

(事務局)

他の学校でも小中の連携であったり、いろんな部分で工夫されているとは思いますが、学校再編をすることによって、さらにそういう部分が伸ばせ、プラスになっていくのではないかとというようなことで考えております。

(原田委員)

すいません、吉井小学校でこういった試みは、少人数だからこそ先生の目が行き届くと思うんです。地域の方も借りながらやつのことで出来上がっている状態なんですが、児童数が増えて、さらに先生がこういったサポートを充実することが本当にできるのか、少し不安があるのと、もう少し具体的な魅力、オーガニック給食ですとか、全く違う分野で新しい魅力がもう少しあればいいんじゃないかと感じています。

(箕島委員長)

今のご意見についていかがですか。委員の方、いかがでしょうか。

(片山委員)

前回の会議で、確か清原委員の方からスポーツの選択、いろんなスポーツの選択ができるようなクラブであったりとかそういうご意見が出ていたと思うんですけども、こういう再編による効果の中で、本当にクラブ活動であったり、スポーツの選択であったり、というようなキーワードをもっと入れたらいいのではないかなと感じました。

(事務局)

当然、児童生徒数が増えてくるとクラブ活動とか部活のやりたいものの選択肢というのが増えてくるとは思います。そこで子どもたちがどういうことをやりたいのか、いろいろ聞きながら、部活動を決めたりとか、これは学校にいらっしゃる教職員や地域の方々などの指導者の数にもよってくると思うのですが、子どもたちの意見も聞きながら、やりたいものを選択できる。スポーツにしても他の文化系のものにしても、子どもたちが増えることによってそういう選択肢の幅が広がってくると考えております。

(箕島委員長)

人数が増えると目が行き届かなくなることについては。

(事務局)

クラス数が増えてくると、教員の数というのも当然増えてきますので、それに対応できると思

ます。学校全体で、担任の先生とかだけではなく、事務員さんだったり、用務員さんだったりいろんな方々の目を見ていくってということも可能にはなってくると思いますし、それぞれの学校で取り組みも考えられると思います。子どもの数が増えてきたら、子ども同士でそういうのを見ていくということも可能ではあると思います。

(原田委員)

担任の先生ひとりですか。

(事務局)

再編の学校によって変わっていきます。

(清原委員)

大きい学校、生徒さんがたくさんいる学校のメリットもあれば、小さい学校のメリットもあるわけですよね。それでも合併する以上は、そのメリットを生かしながら大きくなって大丈夫ですよという言葉がないと、その小さい学校で、それをよしとしている保護者は多分納得しないのではないかなと思うんですよ。この実施計画の中で、この視点が必要かと思うが、今の学校で、こういう細かい問題があってそれに対してこうなったら改善できますみたいなものがあつた方がいいと思うんです。例えば、今小さい学校は何も部活できないんですよ。正直言って、これは大きなデメリット。大野も野球がなくなりました。女子バレーもなくなりました。剣道がかろうじて残っています。でも他の部活はありません。やりたい子がいてもできないとか、問題があるわけじゃないですか。そのときに合併したときには人数が、母体が大きくなるのでそういうのも可能ですと。例えば先生は1人なんですかと、クラスに対してさっと集めてきたら、1人だけじゃなくて、ある程度先生もいるわけですよね。学校再編というのはコスト面のことも大きな要素としてやるわけですから。これぐらいの先生の数にはなるけれども1学級は何人ぐらいにして、先生は担任と副担任も必ず置きますとか、何かそういうその教育のある程度ビジョンに関わるような言葉も入れとかなないと、今のような質問が出たときに対応できないのではないですか。合併しても先生がちゃんとケアできるようなクラス編成になるんですよ、みたいなところが多分心配なことだと思うので、そこは教育委員会の方で練り込んで、この文章の中にちゃんと言葉として加えるようにしてもらおう。最初のコンセプトとして、小さな学校のメリットだったことも打ち消さないようにしますというような何かがあるんちゃうかなと。もちろん僕は合併すべきと思ってます。小さい学校では人数が少なかったから先生の数も届くので、多分、かなり細かいことができるのだらうと思うんですけど、それでも僕は合併して、たくさん子どもが集まる中で人格形成されていった方がいいと思うので、何かしらその辺をケアしながらも、こういうメリットがありますというのを具体的なことを言葉を使って書いた方がいいのではないかなと思います。

(箕島委員長)

議論するときには児童生徒数が少ないの定義がなく、どの程度かわからないので、事務局からご意見いただけませんか。少ないという場合、人それぞれで少ないの程度に違いがあります。さっきの津乃峰小学校ですと6名ですが、20名でも少ないと思ってる方もいらっしゃいます。

(事務局)

数の定義ですけれども、少人数学級の全国的な基準として、文部科学省が進めているのは35人学級の実現ということをしてきています。既に徳島県では35人学級になっています。広い意味ではもう35人学級が少人数であると、そういったこともあるのですが、私どものところでは、今回20人前後が人数としてはふさわしいのではないかとということでご提案させていただいてる通りです。そのぐらいの数が適切でそれよりも少なければ少人数であるというような考え方は持っています。それがまず1点と、小さな学校のメリットというお話がでました。小さな学校のメリットというのはあると思います。例えばきめ細やかな教育ができるとかそういったところもあります。これはまた、実際学校現場で教えられている先生方とかに聞いた方がいいかもわかりません。現在では一斉授業だけではなくて、教室の中で例えば4人とかでグループをつくって島をつくってグループ学習をしています。今まで少人数学級で培ってきた教育のやり方を規模が大きな学校になっても授業の中でそういう少人数グループでグループ分けする教育の中で生かせるというようなメリットがあるのではないかと考えております。

(原田委員)

もう一つお願いします。おそらく小規模で、もう既に充実しているというか、気に入っている住民がすごく多いと感じているので、大規模な学校もつくりつつ、小規模な学校を残すという考えを残していただきたいのと、学校選択制をもう少し大きく記載していただくことはできませんでしょうか。外部からこの小規模に入って来てくださる方がいらっしゃれば、人数の補填もできると思いますし、私達内部からも外に出たいという方もいらっしゃいますので、本当に子どものためを思うのであれば、そういった選択性も記載していただけるとすごく嬉しいです。

(事務局)

今回、学校再編実施計画書第3章の学校再編実施計画で、ご説明できていない部分があります。学校再編対象校の設定についてということと、学校再編案ということとです。具体的な、例えば学校選択制や小規模特認校制度などについては、この章で触れたいと思っております。

(原田委員)

小松島で4校くらいに減ったと聞いたのですが、次回提案があるということですね。

(箕島委員長)

何校になるかは、次回の委員会で提案があります。

(田中委員)

私は保護者ではありませんので、本当は今何よりも子どもたちが少ないことが問題だと思うんです。入学時点から保護者の方が将来スポーツをやりたいとかいうような目的があったら、どうせ車で仕事に行くのだから、学童へ入ったら夕方迎えに行くのだから、違う学校に行かせてもいいという保護者もいます。保護者の気持ちや家庭の教育方針ですので、学校自身もこの保護者を捕まえることできませんし、私達はいてくれたらいいのになと思っても、これはもう止めることができませんよね。それでも、先ほど、ご説明したように、びっくりするような世の中の変化、子どもの数の変化に出会ったりしていますから、この委員会はすごく難しいと思いました。

(原田委員)

加茂谷地区は10年以上前から移住促進で動き始めています。RMOという農村保全の活動を始めていて、問題提起のワークショップを行ったところ、学校の存続が第4位になっております。住民全体の意見でそういう状況だと思っています。

(清原委員)

こんなところに文字で書けないと思うんですけど、もう正直なところコストの問題じゃないですか。

(箕島委員長)

コストの問題もありますけど、例えば先ほど津乃峰小学校くらいの小規模だと、やはり社会性を育むのはちょっとしんどいとか、そういう問題もあります。

(清原委員)

でも小規模でいけるっていう思想の方がいるわけですよ。

(笠原委員)

再編統合なんですけど、子どもさんが減ってきて学校を活性化するために、そうした方が学校の体育やクラブ活動にしても、やりやすい状況ができるのではないかとということで、再編統合して生き生きとした子どもを中心にした学校をつくるということです。集約すれば、コスト面でも良いようにはなると思います。一方、現状で35人学級が最少で、高校では40人で2人の教員がつきます。中学校はよく分からないのですが、35人を2人で見るということは、17人に目がいくというようなことも考えられます。大きいから目が届かないというわけではありません。それでも昨今の教員不足、本当にこの1、2年深刻になってきて、バラバラに小さい学校で点在すると、そこに教員を送り込むだけの余裕は多分全国的にないと思います。もちろん徳島県も例外でない。少人数は目が行き届くという意見もありますが、教員が不足して、実は送れないということが起これば、教員の目が行き届いているとは言いがたい。複式学級にして、3年生・2年生・1年生で一緒のクラスで様々な学年を1人で見なければいけないという状況も実際にはあります。教員不足は、深刻で、受験する人がどんどん減っており、この定数を30人、25人にして集めようにも先生がいない。すごく先生が集めやすい条件があるなら、25人にしたら目がよく行き届くので、少人数がよいと言えるのですが、教員不足の中ではどうかと思います。全国的な教員不足という背景もあることをお知りいただきたい。本校も困っています。

(清原委員)

学校の問題は、例えば事務の運用能力とか、先生方が事務仕事までしているとか、それによって本来は教えることだけにもっと集中したいのに、いろんな事務的なことをやらないといけないとかがあると思います。あと小学校でも例えばさっきおっしゃったように、誰か妊娠出産でしばらく外れますよというときに、補充の先生がなかなか当てられないので教頭先生が、場合によっては校長先生がしばらく受け持ちましょうと。少人数学級のその学校が存続した場合でもそういうときに対応できるかということ、なかなか難しい。コストの問題と言ったのですが、そのコストとはいろんな

意味合いがあると思うのですが、学校そのものを運用していくときにももちろんハードウェア的なコストもありますが、いわゆるソフトウェア的なコストに関してもある程度人数を集めて一つの学校にした方が、結果的には何か不測の事態のときに対応できますという学校があるかどうかのも一つの大きな問題ではないかなと思うのです。ここにそういうコストの問題を書けないと重々わかるのですが、個々の問題をもうちょっとはっきりした上で、これに対応するためには、ある程度の人数を集約した方がいいですというのをもっと具体的に、いろんな細かい問題であるだけに、いやそれは検討中ですか、考えていませんでしたとかというのは僕はあり得ないと思うんですよ。本当に今ある問題をここで全部解決はできないと思いますが、それでも少なくともこの問題に関しては解決できて、子どもたちのためになりますという資料を作り上げて話を進めていく必要があるのではないかなと。表現が抽象的すぎて例えば子どもが選択できますって、子どもに何を選択させるのって逆に思いますし、判断力がない子どもが選択、もちろんこれは大事なんですが、小学校1年生、2年生で判断力もない、高学年になって中学校に入ったあたりでようやく自分が選択する意味とかが分かってくると思うので、それよりは多分僕らは子どものためのことを思っているいろんな意見を出し合ってるんですけど、少なくとも、合併することで子どものためになるってというようなことを、いろんな今の現状の問題点、それからそれを解決するためにこんなことができます、こういうふうにしますとか、合併してもある程度先生の数を何人は担保しますというような言葉があった方がいい。小さい学校がいいと言っている保護者に対しての説得の材料がないと、永遠にとにかく小さい学校がいいんです、この小さい学校のメリットがあって。このメリットはあると思いますが、いろんな社会情勢から考えてもう3年前から無理でしょうってというのが僕の考えなんです。それに対してのある程度そういう人にも配慮した何かができるというものを考えてあげる必要があるのではないかなと。多分、合併に賛成する人というのは、ある程度合併していったらこういうことができそうやねって、何となくのイメージで賛成すると思うのですが、小さいままでいて欲しいという人に対して、今実際見えること以外でもこういう問題があり、解決するためにはこれが必要なんですというものをどこまで文章にするか、少なくとも事務局サイドで持っておいて、何かあったときには実はこうなんですというのが返せるように、ぜひ資料を作っていただけないかなと思います。

(箕島委員長)

事務局、何かありますか。

(事務局)

貴重な意見をありがとうございます。

(箕島委員長)

多分選択できると言ったときに、児童生徒が選択するというのもありますが、それは子どもなりの選択ですから。主語を書いていませんが、親も選択の中に入っているのですね。この文章で分かりづらいのは、多分具体的な再編案がないので。さっきの学校選択制にしても、こうやったらどうしましょうとか、そういうのは事務局の方で考えられていると思いますので、それを見て議論されたらいいかなと思います。ここはどうしてもある程度抽象的な書き方にならざるを得ません。高等教育機関でも、教育の第一目標は主体的な学びです。要は教えられたことだけ勉強するのではなくて、自分のキャリアアップをするためにどういう勉強をこれから自分で選んでやっていくか、それが社会に出て必要な力なので。教育についても、最近は先生方もすごくいろいろ勉強されて、最新

の教育手法を活用されて、アクティブラーニングなども、これはもう一般化されていますが、反転授業であったりとか。こういう場合は、ある程度人数がいるほうが効果が上がる。3、4人だと、グループがいつも固定化してしまうので、別の視点が入らない。やはり多様性はある程度必要です。多様性というのは、ただ単に女子・男子だけじゃなくて、いろんな考え方をを持った児童とか生徒が入ることで、より良くなります。発想の違う人と交わることで、より成長しやすくなります。それが人数が少ないと、どうしても同じ考えの子と付き合うので、その場合はちょっと困ります。少人数であることはいいのだけど、そのときにいろんな少人数で、いろんな人と付き合える環境をつくった方がいい、というのが市の考え方です。いつも少人数で固定していると、同じような考えばかりになるので、新たな考えが浮かばない。教育の質を落とさないために、少人数教育が担保されるように努力しますということです。5、6人でいつも遊びや学習をするのであれば、その人数分しか意見が聞けない。それが20人になれば、人それぞれ自分の意見をもっていますので、一つの勉強をしても20通りの考えがあり、そういう考えもあるのかと気づくことができます。だから、ある程度の規模感がある方がいいというのが市の考え方です。

(西委員)

阿南市の事であって、私のいる支援学校、県とは、またちょっと違うところもたくさんあると思うのですが、阿南支援学校は本校と分校とあります。本校は、大野の地区に133名の子どもたちが通っています。日和佐に小さい分校があります。そこには18名の子どもがいますが、統合であるとか、廃校であるとかは考えられていません。県の考え方としてです。それはなぜかというと、日和佐分校は小さいけれども、そこに必然性があるからなんです。地域として必要であるとか、いろんな意味があります。隣接する施設もありますし、そこを越えともう高知までの間に知的な障害のある子どもが学ぶ、通える学校がないので必要なんです。だから、小さいけれども存在しています。先ほど教員不足の話もありましたが、やっぱり小さくなると教員1人に対しての仕事量が増えます。どうしても1人の先生が一つの校務が当たるし、いろんなことを1人が負わなければならない仕事量が増えるというデメリットもありますが、その学校としての必然性というのがあるから、日和佐分校はあります。さっきもグラフにありましたように、特別支援の必要な生徒はどんどん増えているので、どんどん入ってきます。だから1人の先生が持たなければならない人数というのが今後増えてくるという大変さというか、また違ったデメリットというか難しさはあるけれども、本校は本校の存在意義というのがありまして、県としてここに阿南支援学校と分校というのが置かれています。その地域になければならない学校としての必然性があるから存在しているというところがあって、多分阿南市の大きい学校、小さい学校たくさんありますが、きっと地域として、やっぱり小さいけれども必要な場所というのはあるんじゃないのかなとは思いますが、地域的に統合していった方がより良いのではないのかという地域差もあるのではと思っています。どちらのこともあると思うのですが、1回目の策定会議の趣旨にありましたように学校の再編というのは地域の再編統合という問題でもありますという文言がありまして、きっとそうなんだろうなと思いました。だから一概に35人揃えるであるとか、同じような規模にしようという考えでは教育委員会さんの方もないのではないのかと思うので、この地域に必要なだから、ここはこういうふうに再編する、この街はこうだからこのように再編するというような説明で、コンセンサスを得られるような考えがもうちょっとビジョンとして必要なのではないかなと思いました。

(事務局)

私は、行政職で、本来であればこの学校再編というのは、人数規模があって、その基準に合うようにというような考え方で思っている部分が当初はありました。やはりただ、進めていく中で、教育の内容であるとか、先ほど地域のこととかを考えれば、やはり多様性というのはあってもいいのではないかと考えております。そういったいろんな意見を聞きながら、今後皆様方にできるだけコンセンサスを得られるような、再編案を提示できるようにしていこうかと思っております。

(片山委員)

声大きい地域は例えばその通りになったり、声小さい少数意見のところは、ならなかったりというのではなくて、皆さんの小さい意見も聞いていただきたいなと考えています。私が実際に親御さんから聞いたことでは、うちの子が通っている学校は人数が少ないから、子どもがかわいそうなんですって、家庭科とかの授業のときに専門外の先生が教えに来てくれて、クラブ活動もないで、選択ができるようなところに行かせたいんですという小さな意見もあるんです。そういう声も確かにそうやねって私自身が大規模と言われる学校を卒業しておりますので、そういう考えがなかったのですが、そういう保護者の方もおられるんやなというところもあります。ですからこの委員会の中でも、それぞれの立場でそれぞれの地域で経験したことしか分からないし、意見ができませんが、そういう他の地域の小さな声も汲み取ってあげて欲しいなと考えています。

(事務局)

本当に小さな声って大事ですし、あともう一つ声なき声というものもあります。言いたいけれども言えない、そういった声も十分汲み取って取り組んでいかなければいけないと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(田中委員)

教えてください。資料の17ページ5段目ぐらいですかね。特段の配慮が求められることという言葉があったんで、特段ってどんなことですか。内容はどのようなことですか。

(箕島委員長)

特に注意が必要、という意味で、配慮を強調した用語です。

(田中委員)

もうちょっと平易な言葉をお願いします。

(事務局)

検討します。

(箕島委員長)

そういう御指摘も含めて、文章については事務局の方で精査します。新聞で使っている程度の言葉に直すように、事務局でよろしくをお願いします。

(清原委員)

この人口推移と推計のグラフですが、これ結構衝撃的で、いろんな意味合いが詰まっていると思いますが、学校をひとつ作ると、2、30年はこのまま行きますよね。多分、実際に統合されるのが5年後ぐらいとして、そこから30年後ぐらいの推計も最後のところで触れてもらうと、こんなに減っていくというのが視覚的にみんな分かった方がいいのではないかなという気もしますので、やっぱり現実的な話をするとき、それをみんなで認識することがいいのではないかなと思うので、もうちょっと長いスパンの数字が、もしあるのであれば、入れていただきたいなと思います。

(箕島委員長)

各地域で出してるけども、それを出せるか出せないかは別として、検討していただきます。その他の意見ありますか。

(事務局)

事務局からご連絡を一つさせていただきます。今後の策定委員会の予定でございますが、次回の策定委員会におきまして、具体的な学校の再編につきましての再編案をご協議いただきたいと考えております。しかしながら12月は議会もございますし、1月2月には住民説明会を実施したいと考えておりますので、日程調整が困難になることも想定されます。もし日程の調整が困難な場合につきましては、また委員様に個別にといたしますか、また別の方法でご説明をするような機会を設けたいとも考えておりますのでよろしく願いいたします。

(箕島委員長)

他にはございませんでしょうか。よろしいですか。そうしましたら私の議長としての役割はこれで終了といたします。円滑な会議の進行にご協力くださり誠にありがとうございました。

閉会